

Semester留学便り 12月 (引率教員版)

あっと言う間に四か月が過ぎ、38名の学生は無事に帰国しました。

12月になると、前から聞こえていた「帰りたくない」「もっとここにいたい」という声が大きくなります。「四か月って早いですね」という感慨も聞かれます。

【行事等】

- 2日(日) HSK
- 3日(月) 中間試験
- 5日(水) 北京観光(天安門広場・故宮博物院・胡同・北京ダック)
- 8日(土) 誕生会(学生の企画)
- 9日(日) バドミントン大会決勝
- 14日(金) 17日(月) 18日(火) 最終試験
- 19日(水) 発表会リハーサル
- 20日(木) 修了式・発表会
- 23日(日) 北京へ移動
- 24日(月) 帰国(JL24便で首都国際空港より羽田空港へ)

内容等については学生版に譲ります。

12月は月初めのHSKに始まり、中間試験に発表会の準備、期末試験の勉強、帰国の準備と忙しく、時間が加速するよう感じられます。中国との別れに向けて、慌ただしい中でもそれぞれが悔いの残らないように過ごしていました。

【四か月を振り返って】

留学の一番大きな目的は中国語の学修です。各自がレベルアップに向けて勉強に励みました。その成果のほどは各自が実感していると思いますので、ここでは措いておきます。ただ、今年度はやや欠席が多かったというのが現地担当教員の弁です。一方で、日本での幾分怠惰だった生活習慣が大きく改善されたという学生もいました。

今年度は日中関係が不安定になり、諸々の制約を受けることを余儀なくされました。また、11月には「十八大」(中国共産党第十八次全国代表大会)が開催されました。このような敏感な時期に滞在し、中国の体制の特色を感じ取った学生もいると思います。

大多数の日本人が持っている中国の印象というのは、決してよいものではありません。中国に対して悪い印象しか抱いていなかった学生も、政治や外交とは別の次元で中国の現在や個々の中国人に接することによって認識を改めます。自分が実際に見て考えたことを基に、更に中国への理解を深め、また日本との関係にも思いを巡らせて欲しいと思います。

セメスター留学は集団で留学する形式を採るため、学生同士で過ごす時間が長くなり、連帯感や仲間意識も育まれる傾向にあります。帰国間近には、「留学がこんなに楽しいとは思わなかった」と言う学生もいました。

帰国後も大学生活は続きます。学生一人一人が留学で得られたものを肥やしとして、より充実した日々を送ることを願っています。

(佐川 記)